

牛久：学校周辺に見る自然

第5号 ひたち野西近隣公園

2015年10月26日発行

＜動物のすみかをしらべよう ～秋のみずべ公園 ⑤葉を食べる虫たち その2. バッタの仲間 ＞

9月24、29日、ひたち野うしく小3年生とのみずべ公園。テーマは「動物のすみかをしらべよう」。今回は、植物の葉を食べるバッタの仲間。



雑食性のマダラスズのオス。体長6～7mmで、後ろ足のしまもようが目だつ。ツユクサの花と大きさを比べてみよう！

まずは、後ろ足のしまもようが目だつマダラスズ。ヒバリモドキ科の仲間^{なかも}で体長6～7mm、枯れ草や草の根、昆虫の死がいなどを食べるそうです。写真はオスで、メスはもっとはねが短いです。鳴くのはオスで、夜だけでなく昼にも鳴いています。それにしても、小さいですね。



成虫で冬を越すハネナガヒシバッタ。文字通りはねが長いヒシバッタの仲間。ミソソバの花と大きさを比べてみよう！

続いて、ハネナガヒシバッタ。文字通り、はねの長いヒシバッタの仲間^{せいちゆう}で、成虫^こで冬を越します。水辺の草むらに多く見られ、いろいろな草の葉を食べるようです。



こちらは普通^{ふつう}のヒシバッタ。体長は1cmくらいですが、これでもおとなです。左の写真のように、上から見ると体形がひし形なのがわかりますね。それで、「ひしバッタ」と名づけられました。明るい所でくらすものほど、体の色も明るい色になるそうです。ハネナガヒシバッタのようにはねを広げて飛ぶことはなく後ろ足でジャンプするだけです。その割^{わり}にはピョンピョンとよくはねます。とっても小さな体で、ぴよんぴよん跳ねるヒシバッタ。体形がひし形なので、「菱^{ひし}ばった」。



腹部のしまもようが目だつ、ヒナバッタのメス(左)とオス(右)。どこが違うかな？

次は、明るい原っぱに多く見られるヒナバッタ。腹部に特ちょう的なしまもようがありますね？他のバッタと見分けるポイントとなります。この日はオスとメス両方が見られましたが、どこが違うか分かりますか？よ〜く、見くらべて下さいね。



芝生や乾いた原っぱに多いシバズメのメス(左)と、雑食性のハラオカメコオロギ(右)。

左は、芝生や乾いた原っぱに多く見られるシバズメ。体長はわずか6〜8mm。腹部に産卵管があるから、メスですね。右はハラオカメコオロギ。もぐってしまっていて、全体を写せませんでした。昆虫の死がいや野菜くずなどを食べるそうです。これも産卵管があるからメスです。



こちらは、おなじみのショウリョウバッタ。緑色のものもいましたが、こちらは褐色型。明るい原っぱに多く見られ、イネ科の草の葉を好んで食べます。バッタの仲間といっても、食べ物はいろいろですね。オスは飛ぶときに「キチキチ」と音を立てるので、「キチキチバッタ」とよばれることもあります。

おなじみのショウリョウバッタ。明るい原っぱに多く、イネ科の草の葉を好む。



そしてこちらは、コバネイナゴ。やはりイネ科の草の葉が好きで、イネの害虫でもあります。人間が佃煮にして食べるのは主にこれで、食料にすると同時に害虫駆除もしているわけです。似たのではねが腹端より長いハネナガイナゴがありますが、頭の形などから判断しました。調べたら、はねの長いコバネイナゴもいるそうで、ややこしいです。【理科支援員：宮内】

イネの害虫でもあるコバネイナゴ。佃煮にして食べるのはこれ。